

はじめに

御使いに関する事柄は、聖書における非常に重要なテーマです。

私は日頃、主題説教はしませんが、聖書から御使いについて教えてほしいというリクエストをいただいたので、その全容を知るために、今日は多くの聖書箇所を読みます。

使徒の働きですでに学んだように、御使いは初代教会設立にとって重要な存在でした。

御使いは、クリスマス話でも、マリヤやヨセフ、羊飼いたちと関わる重要な存在です。

御使いについて 40 分間でできる限りのことを学ぶため、今日のメッセージは 3 つに分けてお話しします。

1. 聖書が御使いについて教えていること
2. 近代における御使いに関する記録
3. 現代に生きる私たちの生活への実践と適用

1. 聖書が御使いについて教えていること

a) 御使いの存在

まず、イエスと使徒たちが教えた御使いが今も存在することを理解しておく必要があります。

マタイ 18 : 10

18:10 あなたがたは、この小さい者たちを、ひとりでも見下げたりしないように気をつけなさい。まことに、あなたがたに告げます。彼らの天の御使いたちは、天におられるわたしの父の御顔をいつも見ているからです。

マルコ 13 : 32

13:32 ただし、その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。

イエスは、御使いが実在することを信じておられ、そのように教えられました。

使徒たちも、その存在を教えており、多くの使徒は御使いが実際に働くのを体験しました。

パウロがコロサイの信徒たちに手紙を書いたおもな理由は、天使崇拝というグノーシス主義の思想を正すためでした。

教会の信徒たちが誤って御使いを拝んでいたからです。

これらの御使いが礼拝を受け入れていたのであれば、それは墮天使であり、悪魔の手先ということになります。

コロサイ 2 : 18

2:18 あなたがたは、ことさらに自己卑下をしようとしたり、御使い礼拝をしようとする者に、ほうびをだまし取られてはなりません。彼らは幻を見たことに安住して、肉の思いによっていたずらに誇り、

ペテロも当然、御使いの存在について教えました。彼は、獄中で 16 人のローマ兵に監視されていたところを御使いによって助け出された経験をしたからです。

ペテロ第一 3 : 22

3:22 キリストは天に上り、御使いたち、および、もろもろの権威と権力を従えて、神の右の座におられます。

使徒ヨハネも、ヨハネ 1 : 51 のイエスのことばを引用して御使いの存在について教えてきました。また、黙示録 12 : 7 でも教えています。
さらに、黙示録 22 : 9 では、ある出来事についても記録しています。その個所を読みましよう。

黙示録 22 : 8-9

22:8 これらのことを聞き、また見たのは私ヨハネである。私が聞き、また見たとき、それらのことを示してくれた御使いの足もとに、ひれ伏して拝もうとした。

22:9 すると、彼は私に言った。「やめなさい。私は、あなたや、あなたの兄弟である預言者たちや、この書のことばを堅く守る人々と同じしもべです。神を拝みなさい。」

この個所は、御使いの存在に言及しているだけでなく、御使いを拝むことを禁じています。

もちろん、旧約聖書には、御使いの存在についてたくさんの教えがありますが、御使いについて他にも学んでからそれらの個所を読みたいと思います。

b) 御使いの描写

御使いとはいったい何でしょう。聖書は、御使いが「造られたもの」だと教えます。

コロサイ 1 : 15-16

1:15 御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。

1:16 なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。

御使いは造られたものですが、私たちのようには造られていません。

御使いは霊の存在ですから、私たちとは違います。

けれども、目に見えるかたちで現れ、人間の姿で普通の人のように見える場合もあります。

聖書に登場する御使いはすべて、男性の姿で現れています。

もしあなたが日本人なら、御使いに助けてもらうことがあったら、その御使いは日本人かもしくはアジア人の姿をしていると考えておいてください。

真っ白の長い衣を着た羽根の生えた生き物を想像しないでください。

御使いが現れるときは、姿を表す相手にとって交流できそうなかたちで現れます。

創世記 19 : 1-3

19:1 そのふたりの御使いは夕暮れにソドムに着いた。ロトはソドムの門のところへすわっていた。ロトは彼らを見るなり、立ち上がって彼らを迎え、顔を地につけて伏し拝んだ。

19:2 そして言った。「さあ、ご主人。どうか、あなたがたのしもべの家に立ち寄り、足を洗って、お泊まりください。そして、朝早く旅を続けてください。」すると彼らは言った。「いや、わたしたちは広場に泊まろう。」

19:3 しかし、彼がしきりに勧めたので、彼らは彼のところに向かい、彼の家の中に入った。ロトは彼らのためにごちそうを作り、パン種を入れないパンを焼いた。こうして彼らは食事をした。

御使いは造られたものであり、霊の存在であると同時に、力強い存在でもあります。

ペテロ第二 2 : 11

2:11 それに比べると、御使いたちは、勢いにも力にもまさっているにもかかわらず、主の御前に彼らをそしって訴えることはしません。

詩篇 103 : 20

103:20 【主】をほめたたえよ。御使いたちよ。みことばの声に聞き従い、みことばを行う力ある勇士たちよ。

たったひとりの御使いが、ソドムとゴモラの町を滅ぼしました。また、たったひとりの御使いが、エジプトの人間と家畜のすべての長子を殺しました。

イザヤ書 37 : 36

37:36 【主】の使いが出て行って、アッシリヤの陣営で、十八万五千人を打ち殺した。人々が翌朝早く起きて見ると、なんと、彼らはみな、死体となっていた。

御使いは非常に強いですが、神は全能で、もっと強いお方です。御使いは、神の働きをするように遣わされているのです。

テサロニケ第二 1 : 7

1:7 苦しめられているあなたがたには、私たちとともに、報いとして安息を与えてくださることは、神にとって正しいことなのです。そのことは、主イエスが、炎の中に、力ある御使いたちを従えて天から現れるときに起こります。

御使いには、階級や秩序もあります。聖書を読むと、御使いは司令官イエスの指揮下で動く軍隊のようです。

ペテロ第一 3 : 22

3:22 キリストは天に上り、御使いたち、および、もろもろの権威と権力を従えて、神の右の座におられます。

では、御使いは何人いるのでしょうか。聖書は、数えきれないほど多くの御使いがいると教えます。

ヘブル 12 : 22

12:22 しかし、あなたがたは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の御使いたちの大祝会に近づいているのです。

c) 少数の御使いの不従順

もとは、御使いは良いものとして造られました。けれども、罪を犯したものもいました。

ペテロ第二 2 : 4

2:4 神は、罪を犯した御使いたちを、容赦せず、地獄に引き渡し、さばきの時まで暗やみの穴の中に閉じ込めてしまわれました。

さばきを受ける結果を招いた罪が何かははっきりわかりませんが、サタンの墮落はエゼキエル書 28 章に記されています。サタンの罪は、高ぶりであったとあります。聖書は、サタンと結託する御使いたちについて語ります。それらの御使いたちは、サタンの目的を実行しようとしています。

マタイ 25 : 41

25:41 それから、王はまた、その左にいる者たちに言います。『のろわれた者ども。わたしから離れて、悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火に入れ。』

黙示録 12 : 7-9

12:7 さて、天に戦いが起こって、ミカエルと彼の使いたちは、竜と戦った。それで、竜とその使いたちは応戦したが、

12:8 勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。

12:9 こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇は投げ落とされた。彼は地上に投げ落とされ、彼の使いどもも彼とともに投げ落とされた。

このような墮天使たちは、新約聖書の随所に登場する悪霊と同じだと考えられています。墮天使たちは、神のみこころに対抗します。（ダニエル書 10 : 10-14）

神の民を苦しめます。（ルカ 13 : 16、マタイ 17 : 15-18）

神の民の信仰生活の邪魔をします。（エペソ 6 : 12）

神の民を欺こうとします。（サムエル第一 28 : 7-20）

墮天使の罪には赦しの希望はありません。

聖書は、信徒である私たちが、墮天使のさばきにかかわると教えます。

コリント第一 6 : 3

6:3 私たちは御使いをもさばくべき者だ、ということを知らないのですか。それならこの世のことは、言うまでもないではありませんか。

d) 御使いの働き

御使いはいったい何をするのでしょうか。

御使いは、「天の働き」と「地の働き」の両方を行います。

天では、御使いは、礼拝を含む祭司のような務めがあります。

詳しくはわかりませんが、次に挙げる個所が、そのことを示唆しています。

イザヤ書 6 : 1-3

6:1 ウジヤ王が死んだ年に、私は、高くあげられた王座に座しておられる主を見た。そのすそは神殿に満ち、

6:2 セラフィムがその上に立っていた。彼らはそれぞれ六つの翼があり、おのおのその二つで顔をおおい、二つで両足をおおい、二つで飛んでおり、

6:3 互いに呼びかわして言っていた。「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の【主】。その栄光は全地に満ち。」

黙示録 5 : 11-12

5:11 また私は見た。私は、御座と生き物と長老たちとの回りに、多くの御使いたちの声を聞いた。その数は万の幾万倍、千の幾千倍であった。

5:12 彼らは大声で言った。「ほふられた小羊は、力と、富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい方です。」

御使いの地の働きは、多岐にわたります。

風、火、嵐、疫病などに関わりがあります。

その活動の内容の一部が、以下の個所に記されています。

詩篇 103 : 20

103:20 【主】をほめたたえよ。御使いたちよ。みことばの声に聞き従い、みことばを行う力ある勇士たちよ。

詩篇 104 : 4

104:4 風をご自分の使いとし、焼き尽くす火をご自分の召使いとされます。

歴代誌第一 21 : 15,16,27

21:15 神はエルサレムに御使いを遣わして、これを滅ぼそうとされた。【主】は御使いが滅ぼしているのをご覧になって、わざわざ下すことを思い直し、滅ぼしている御使いに仰せられた。「もう十分だ。あなたの手を引け。」【主】の使いは、エブス人オルナンの打ち場のかたわらに立っていた。

21:16 ダビデは、目を上げたとき、【主】の使いが、抜き身の剣を手に持ち、それをエルサレムの上に差し伸べて、地と天の間に立っているのを見た。ダビデと長老たちは、荒布で身をおおい、ひれ伏した。

21:27 【主】が御使いに命じられたので、御使いは剣をさやに納めた。

イスラエルの民は、御使いの特別な守りのもとにありました。

ダニエル書 12 : 1

12:1 その時、あなたの国の人々を守る大いなる君、ミカエルが立ち上がる。国が始まって以来、その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。しかし、その時、あなたの民で、あの書にしるされている者はすべて救われる。

エゼキエル書 9 : 1

9:1 この方は私の耳に大声で叫んで仰せられた。「この町を罰する者たちよ。おのおの破壊する武器を手に持って近づいて来い。」

ダニエル書 11 : 1

11:1 ——私はメディア人ダリヨスの元年に、彼を強くし、彼を力づけるために立ち上がった。——

おもに御使いは、神の民のための務めを果たします。

ヘブル 1 : 14 には、「仕える霊」と呼ばれています。

そのことを示す聖書箇所は他にも多数あります。

御使いは、創世記 19 章でアブラハムを助けました。

士師記 6 章ではギデオンを、ルカ 1 章ではマリヤを、ルカ 2 章では羊飼いたちを、使徒

12 章ではペテロ、使徒 27 章ではパウロを助けました。

御使いの典型的な働きは以下のようにまとめられるでしょう。

信徒を導く。

働き人を罪人のもとへと導きます。（使徒 8 : 28）そして、罪人を働き人へと導きます。

（使徒 10 : 3）

神の民を励まし強める。

列王記第一 19 : 5-8

19:5 彼がえにしだの木の下で横になって眠っていると、ひとりの御使いが彼にさわって、「起きて、食べなさい」と言った。

19:6 彼は見た。すると、彼の頭のところに、焼け石で焼いたパン菓子一つと、水の入ったつぼがあった。彼はそれを食べ、そして飲んで、また横になった。

19:7 それから、【主】の使いがもう一度戻って来て、彼にさわって、「起きて、食べなさい。旅はまだ遠いのだから」と言った。

19:8 そこで、彼は起きて、食べ、そして飲み、この食べ物に力を得て、四十日四十夜、歩いて神の山ホレブに着いた。

神のしもべを守り、救いだす。

ダニエル書 6 : 21-23

6:21 すると、ダニエルは王に答えた。「王さま。永遠に生きられますように。」

6:22 私の神は御使いを送り、獅子の口をふさいでくださったので、獅子は私に何の害も加えませんでした。それは私に罪のないことが神の前に認められたからです。王よ。私はあなたにも、何も悪いことをしていません。」

6:23 そこで王は非常に喜び、ダニエルをその穴から出せと命じた。ダニエルは穴から出されたが、彼に何の傷も認められなかった。彼が神に信頼していたからである。

御使いは、教会の証人である。つまり、私たちのすることに気づいているという意味です。

コリント第一 11 : 7-10

11:7 男はかぶり物を着けるべきではありません。男は神の似姿であり、神の栄光の現れだからです。女は男の栄光の現れです。

11:8 なぜなら、男は女をもとにして造られたのではなくて、女が男をもとにして造られたのであり、

11:9 また、男は女のために造られたのではなく、女が男のために造られたのだからです。

11:10 ですから、女は頭に権威のしるしをかぶるべきです。それも御使いたちのためです。

死んだ信徒たちを守り、世話をする。

ルカ 16 : 19-22

16:19 ある金持ちがいた。いつも紫の衣や細布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。

16:20 ところが、その門前にラザロという全身おどきの貧しい人が寝ていて、

16:21 金持ちの食卓から落ちる物で腹を満たしたいと思っていた。犬もやって来ては、彼のおどきをなめていた。

16:22 さて、この貧しい人は死んで、御使いたちによってアブラハムのふところに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。

これは信徒が死ぬときに慰めとなります。

このことについてこれまで考えたことはありませんでしたが、今読んだルカの箇所やマタイ 24 : 31 からこれは明らかです。

イエス・キリストの再臨の際に同行する。

御使いたちは、正しい人と悪い人を分け、悪い人に神の御怒りを注ぎます。

(マタイ 25 : 31-32、テサロニケ第二 1 : 7-8)

これは、聖書が御使いについて教えるすべてではありませんが、主要な教えと言えます。御使いについて聖書的な観点を得るのに十分な内容です。

2. 近年における御使いに関する記録

a) 第二次世界大戦中に現れた御使い

まず言うておかなければならないことは、戦争において、神はどちらの味方にもなられません。神にはご自身のご計画とみこころがあります。

それに逆らえば、御使いは神に命じられるままに働きます。

歴史からわかることは、もし神の民が神に向かって叫べば、神は祈りに答えて働いてくださり、それが御使いを動かすことにもつながる場合もあります。

もちろんそれが起こるのは、神のみこころとご計画にかなっていません。

第二次世界大戦中、英国王は国全体に祈りの日を呼びかけました。

この呼びかけに答えて祈りに来た人々で、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドのすべての教会が祈りをささげる人々で満たされました。

神はその祈りに答えてくださり、英国を救ってくださいました。

ここでは、一例のみ挙げておきますが、これだけではありません。この祈りの呼びかけが英国で違いを生み出し、国が守られ、ヨーロッパがヒトラー率いるナチスから解放されたと、多くの人々が語ります。

バトル・オブ・ブリテンと呼ばれる空中戦が勝利の決めてになったと歴史家の多くが言います。

実話

1940年9月のある日曜日の朝、多くのドイツ機がイギリス沿岸を攻撃しました。

第一団は180機があらゆる方向からやって来ました。

その後、さらに180機が来ました。その後も多くのドイツ機がやってきます。

イギリス機は数において劣勢で、ドイツの勝利はほぼ確実でした。

ドイツが戦争に勝ち、イギリスは降伏するしかない状況と思われました。

しばらくすると、ドイツ軍の185機が撃ち落されたという報告が入りました。

残りのドイツ機は、ドイツへと退却しました。

絶望的と思われたにもかかわらず、奇跡的に英国空軍がバトル・オブ・ブリテンで勝利しました。この戦いが、バトル・オブ・ブリテンと呼ばれる所以です。

捕虜として捕えられたドイツ人飛行士3人は、どこからあれほどたくさんの戦闘機を用意したのかと英国人兵士に尋ねたそうです。ドイツ軍の諜報機関は、英国が戦闘機を何機所有しているか正確に把握していました。

そして、空中で完全に数で負けたと言ったのです。

人の考えではそれはあり得ないことですが、神と神の御使いにはできることです。

英国人飛行士によると、英国人飛行士が操縦していない戦闘機を見かけたことがあると言います。そして、その戦闘機は英国の戦闘機に似ているけれども、英国空軍に登録されていないものだったと言います。

空軍最高司令官は、これが御使いによって操縦された戦闘機だと信じています。

ドイツの諜報機関員も後にこう証言しています。

「ビッグベンが午後9時の鐘を鳴らすと同時に、英国軍は我々の知り得ない秘密兵器を使った。あまりの威力に、対抗措置は見つけられなかった。」

明らかに、神は祈りに答えてくださったのです。御使いを用いて、第二次世界大戦中の英国を守ってくださったのです。

b) 御使いが、ベトナムの村全体を守る。

1968年、ベトナム南部の村全体が、御使いによって守られたと言われています。

クリスチャンが多数住むこの村は、北からやってくるベトコンの兵士たちによって村が襲撃され殺されると前もって警告を受けました。

村人たちは武器を持っておらず、戦える人も少数でした。

どうしようもない状況で、どうすればよいでしょう。

しかし彼らは、ジャングルに逃げ込まず、神に助けを求めることにしました。

村人は、必死に祈り、賛美をささげました。

すると、平安と勇気を強く感じたそうです。

次の日、最初の銃声が聞こえ、村人は全員殺されると思われました。

けれども突然、銃声はやみました。

その日一日、そしてそれから数日、辺りは静まり返っていました。

後に、ベトコンの兵士たちが南ベトナムの兵士に捕えられ、この村へ連れてこられました。

村人は、数日前なぜ村への襲撃をやめたかと、その兵士たちに尋ねました。

すると、次のような答えがありました。

「村を襲撃しようと発砲すると、突然村中から男たちが現れて、その男たちに向かって発砲したけれども、倒せなかった。その男たちは太陽のように輝いていて、狙いを定めることもできなかった。怖くなって、ジャングルに逃げた。」
村人の祈りに答えて、御使いたちが村を守ってくれたようです。
神のみこころであれば、御使いを遣わしてご自身の民を守られる、という事実を明らかにする話は他にもたくさんあります。
けれども、どの記録においても、神の御使いたちを動かすカギは祈りです。

c) 英国の教会員に御使いが語った体験。

私が牧会していた英国の教会で、年配の女性がいました。プライバシー保護のため、Aさんとしましょう。

実はAさんは、英国史上もっとも有名な宣教師のお孫さんです。

私はこのことを、彼女の葬儀の司式をしたときに知りました。

あるときAさんが私たちの自宅を訪ねてこられ、御使いと会った話をしてくださいました。詳細は重要ではありませんが、クリスチャンになっていたかどうかわからなかった家族の死について、御使いと会ってから完全な平安を得たと言いました。

この女性は以前、ロンドンで非常に有名な施設の責任者でした。

私は彼女が本当にそういう体験をしたと信じました。

今Aさんは天国にいますから、御使いが世話をしているでしょう。

御使いと出会う体験は劇的なものとは限りません。この女性のようにとてもシンプルな出会いかもしれませんが、神はあわれみとみこころをもって御使いを彼女のもとに遣わされました。神のみこころであるなら、私たちにもそうされるでしょう。

適用

今日の聖書が教える御使いに関する教えを日本にいる私たちの日常生活にどのように適用できるでしょう。

良い御使いについて、聖書が教える知識を持つことが大切です。

それにはふたつの理由があります。

御使いと会ったと言う人がいても、それが神の良い御使いではなく、サタンの手下である墮天使である可能性もあります。

超自然的な体験については慎重になる必要があります。それが神と神の御使いからだとは限らないからです。

もうひとつの理由は、聖書が教える御使いに関する知識は、私たちがクリスチャンとして生きていくのを励ましてくれるからです。

神の目的は必ず果たされます。

神はどんな方法や目的でもご自身の御使いを用いることがおできになります。

もうひとつ知っておくべき大切なことは、どんな状況でも祈りが常に重要なカギとなることです。心から熱心に祈らなくてはなりません。神のみこころなら、民の祈りに答えて、御使いを遣わしてくださいませ。

私たちの死後、復活までの期間、御使いが私たちの世話をしてくれます。

私もこれまでそのように考えたことはありませんでしたが、裕福な男とラザロの話は、私たちが死んで復活するまでの間のことについて励ましを与えてくれます。

御使いたちが今の私たちのことも、将来死んだ後も世話をしてくれるというのは、とてもうれしいことです。

御使いがいることを神に感謝しましょう。